

国際的に通用する高度IT技術者の育成・評価を推進する戦略とは？
—J07, JABEE, 技術士, CCSF, CITP, ISO/IEC 24773を巡って—

動き出した認定情報技術者制度

CITP

2015年3月18日

情報処理学会 ITプロフェッショナル委員長
旭 寛治

CITP制度とは

- 情報処理学会の高度IT資格制度
CITP: Certified IT Professional (認定情報技術者)
- 国内外の標準に整合
 - 国内標準: ITスキル標準 (ITSS)
 - 国際標準: ISO/IEC 24773

➡ グローバルに通用する資格
- 制度の運用:
 - 個人認証と企業認定の2本立て
- 2013年6月発表、2014年度より運用を開始
 - 2014年11月～12月 個人認証の申請受付
 - 2015年3月末までに同審査完了の予定

http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS... ニュース - 情報処理学会...

BYOD ニュース

ビッグデータ

中国・アジア

情報処理学会、ITエンジニアの新認定制度を開始

2014/06/30
池上 俊也=日経SYSTEMS (筆者執筆記事一覧)

333 4 39 85

おすすめ 共有 ブックマーク シェア

会場
グランフロント大阪・ナレッジキャピタル
コングレコンベンションセンター

無料事前登録はこちらから

デスクネット's NEOでビジネスのいろいろな問題を解決!

ITproまとめ
Windows 10
ユニバーサルアプリ

執筆者 一覧

記事カテゴリ
ITpro全記事一覧
特集
ニュース
連載
インタビュー
事例
キーワード
イベント
週末スペシャル
CIO
Computerworld

イベントINFO -PR-
クラウド、Security
ビッグデータ、
スマートデバイス、

http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/column/... News & Trend - 「IT技...

BYOD

ビッグデータ

中国・アジア

News & Trend

「IT技術者を社会から尊敬される職業に」、情報処理学会が新資格制度を始めた理由

2014/08/19
進藤 智則=日経コンピュータ (筆者執筆記事一覧)

698 23 41 53 223

おすすめ 共有 ブックマーク Pocket ツイート シェア

記事一覧へ >>

ITproまとめ
Windows 10
ユニバーサルアプリ

執筆者 一覧

記事カテゴリ
ITpro全記事一覧
特集
ニュース
連載
インタビュー
事例
キーワード
イベント
週末スペシャル
CIO
Computerworld

イベントINFO -PR-
最速プリンターで業務効率改善!
RISO Print Festa

認定情報技術者 (CITP) 制度

レベル7 (世界で認知)
レベル6 (国内で認知)
レベル5 (社内で認知)

個人認証 企業認定

情報処理技術者試験

EXECUTIVE 無料スカウト登録はコチラ

情報システムの最新記事 >> 一覧

ネットワーク、Azureに加えてニフティクラウドもプライベートで提供
サイオス、機械学習エンジンを搭載したVMware運用分析ソフトを発表
東電がスマートメーターで自動検針、20年に2700万件の全顧客に
ITproアクセス・ランキング ベスト100 (2015年1月)
「タブレット」と「デスクトップ」、2つのモードを切り替える
PART2 図解 DevOpsの全貌

CIO COMPUTERWORLD

いま読まれている記事

- 【記者の眼】「多重下請けは本当に必要悪なのか」から1年、見えてきた新SIモデル
- 【ニュース】東電がスマートメーターで自動検針、20年に2700万件の全顧客に
- 【新しいWindows 10 Technical Previewはどこが変わったのか?】「タブレット」と「デスクトップ」、2つのモードを切り替える
- 【ニュース】7部門で首位交代、首位返り咲き目立つ...「パートナー満足度調査 2015」結果発表
- 【企業が陥る、失敗だらけのソーシャルメディア活用】業務でSNSを使っているにもかかわらず上司が叱責、何が問題なのか?

これからのIT投資術 -PR-
コスト削減だけではない!

CITP制度の目的(1)

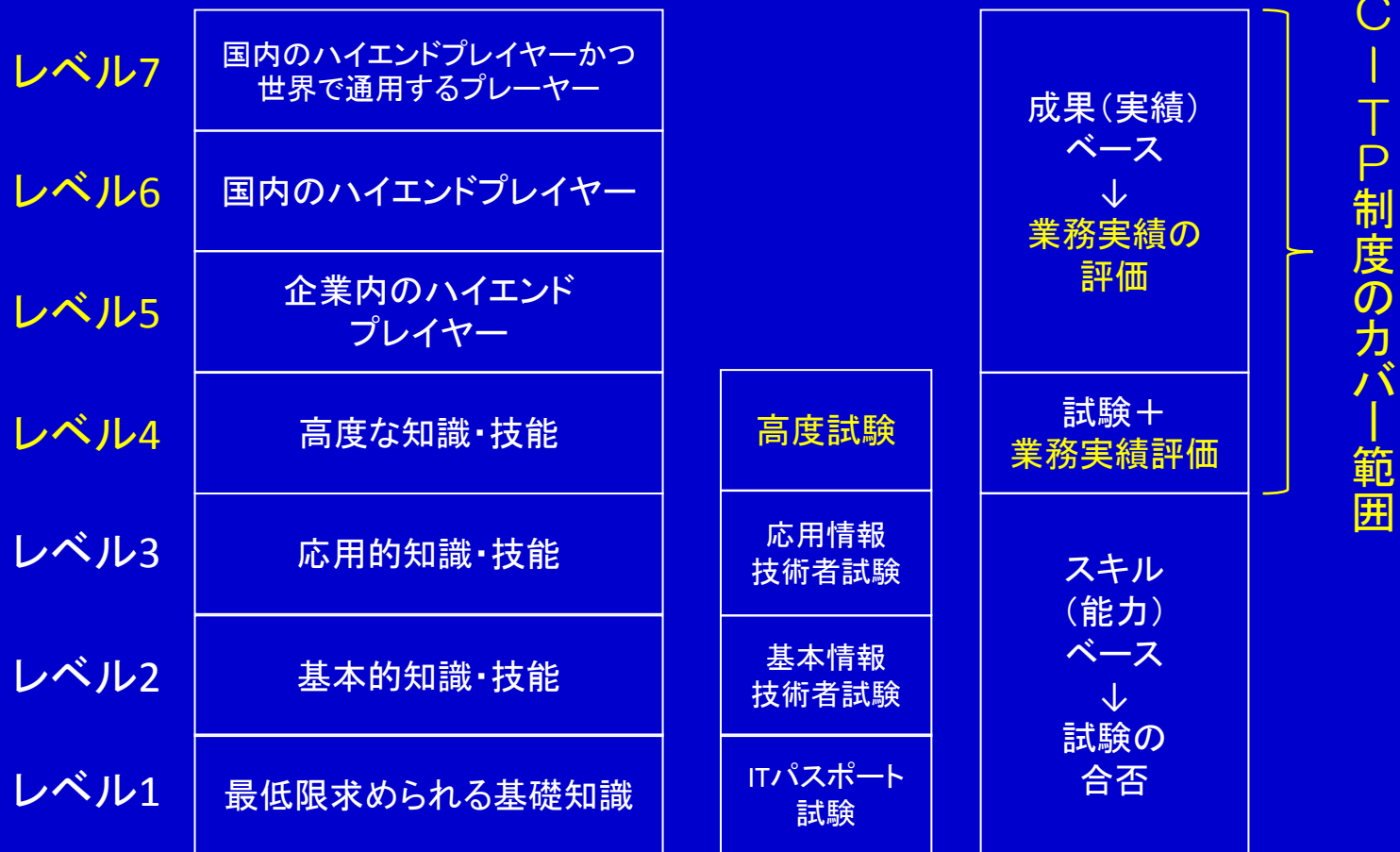
- 高度な能力を持つ情報技術者の可視化と社会的地位の向上
 - 情報技術者に目標を示し、技術の向上に資すること
 - 情報技術者の能力を客観的に評価する尺度を提供し、これを通じて情報技術者の社会的地位の確立を図ること
 - 情報技術者の育成、教育に活用できること
 - 国際標準に準拠した資格制度の確立を通じて、グローバルに通用する情報技術者の育成に資するとともに、高度な情報技術者の評価に関する国際ルールの策定に貢献すること

CITP制度の目的(2)

■ 情報系プロフェッショナルコミュニティの形成

- 認定情報技術者によるプロフェッショナルコミュニティを構築
 - 技術者同士の交流を通じた自律的な質の向上
 - 社会提言、外部の審議会・委員会等への参画、情報分野における教育・人材育成活動などを含む様々なプロフェッショナル貢献活動
 - ピアレビューによる高レベル情報技術者の評価
- 社会や産業界に対する一層の貢献を推進
 - 結果として、情報技術者の社会的地位が向上

ITSSのレベル評価の方法



ISO/IEC 24773:2008

- ソフトウェア技術者の資格制度に関する国際標準
 - 各種の資格制度を比較する枠組み (Comparison Framework)
- 資格制度の評価基準
 - 知識・スキルの体系と要求レベルの明確化
 - 実務経験を含む能力評価
 - 倫理綱領や行動規範
 - CPD (継続研鑽) および資格更新
- ISO/IEC JTC1/SC7/WG20で改訂作業が進行中
 - Comparison FrameworkからConformance Standardへ
 - Part I (General Requirements) に関するNWIPおよびPWDの原案についてCASCOと調整中

IP3の資格制度

- IP3: International Professional Practice Partnership
 - IFIPが設置した、高度IT人材資格制度の推進組織
 - 国際的な相互資格認証の枠組みを導入
 - 情報処理学会は2009年6月に加入
2010年1月よりボードメンバー
- IP3資格制度の特徴
 - ISO/IEC 24773等に適合
 - 各国の資格制度に一定の要件を課すことにより、国際同等性を確保
 - IFIPが各国のメンバー学会を資格認証機関として認定
 - CITPはIP3の認定を取得予定 (ISO/IEC 24773準拠を証明)

審査の概要

■ 個人認証

- 申請条件: 情報処理技術者試験(高度試験)合格
- 申請書: 業務およびプロフェッショナル活動の実績を記載
- 審査: ITスキル標準の定義に従って、能力を評価
(レベル4は書類審査、一部面接実施)

■ 企業認定

- 認定基準:
企業内制度の仕組みに関わるもの(5項目)
企業内制度の資格認証要件に関わるもの(5項目)
- 自己評価書: 認定基準を満たしているか否かを記載
- 審査: 書類審査および実地審査

資格更新に必要なCPD(1)

■ CPD: Continuing Professional Development

- 技術者が自らの資質(技術力や応用能力)向上を目的として行う継続的活動
- 資格の国際標準ではCPDを前提とした更新制が要件
- CPD活動の区分:
 - ① CIPとして能力を磨く活動
講演会・講習会等の受講、シンポジウム・研修会・見学会、コミュニティ活動などへの参加など
 - ② プロフェッショナル貢献活動
技術発表、執筆活動、特許申請、後進の指導、公的機関の委員、論文の査読、講演会講師など

資格更新に必要なCPD(2)

■ CPD活動のカウント

- CPD時間: CPD活動にかかる実時間
- CPDポイント: CPD時間 × 換算係数(重み)
＜例＞ シンポジウムで2時間の講演を受講 $2 \times 1 = 2$
 シンポジウムで30分の講演を実施 $0.5 \times 10 = 5$

■ CITP資格の更新要件

- 3年間に150ポイント以上のCPD活動が必要
- 内、プロフェッショナル貢献活動が50ポイント以上
- CPD活動のエビデンスが必要
＜例＞ 講演会・講習会等の受講証明書

個人認証審査で配慮している点

■ 審査に際して注意すべき事項

- 申請書類には、個人情報や企業秘密情報が含まれる可能性がある

■ 個人情報、企業秘密の保持のための対策

- 審査はNDAの下で行う
- 申請書様式で、申請者名等個人を特定できる情報を分離し、審査員の目に触れないようにする
- 申請者が企業秘密情報を記載しないように指示する
- エビデンス類で企業秘密情報の削除が不可能なものについては、推薦者による確認で代替する

企業認定審査で配慮している点

- 審査に際して注意すべき事項
 - 審査対象となるドキュメント類には、秘密情報（特に競合他社に知られたくない情報）や機微情報（競争法に抵触する情報）が含まれる可能性がある
- 企業秘密保持、競争法コンプライアンスのための対策
 - 審査員は、企業関係者以外（大学教員等）が担当する
 - 審査はNDAの下で行う
 - 審査報告書には秘密情報や機微情報を記載しない

CITP制度の現況と今後の予定

■ 個人認証

- 2014年度に運用を開始
11～12月 申請書受付、現在審査中(3月末審査完)
- 2015年度予定(未確定)
2014年度とほぼ同様の日程(年2回実施も検討中)

■ 企業認定

- 2014年度に一部企業の協力を得て試行を実施
- 2015年度予定(未確定)
6月ごろ募集要項公開、10月ごろ自己評価書締切、
11月～2月ごろ審査、3月ごろ審査結果確定

CITP認定の勧め

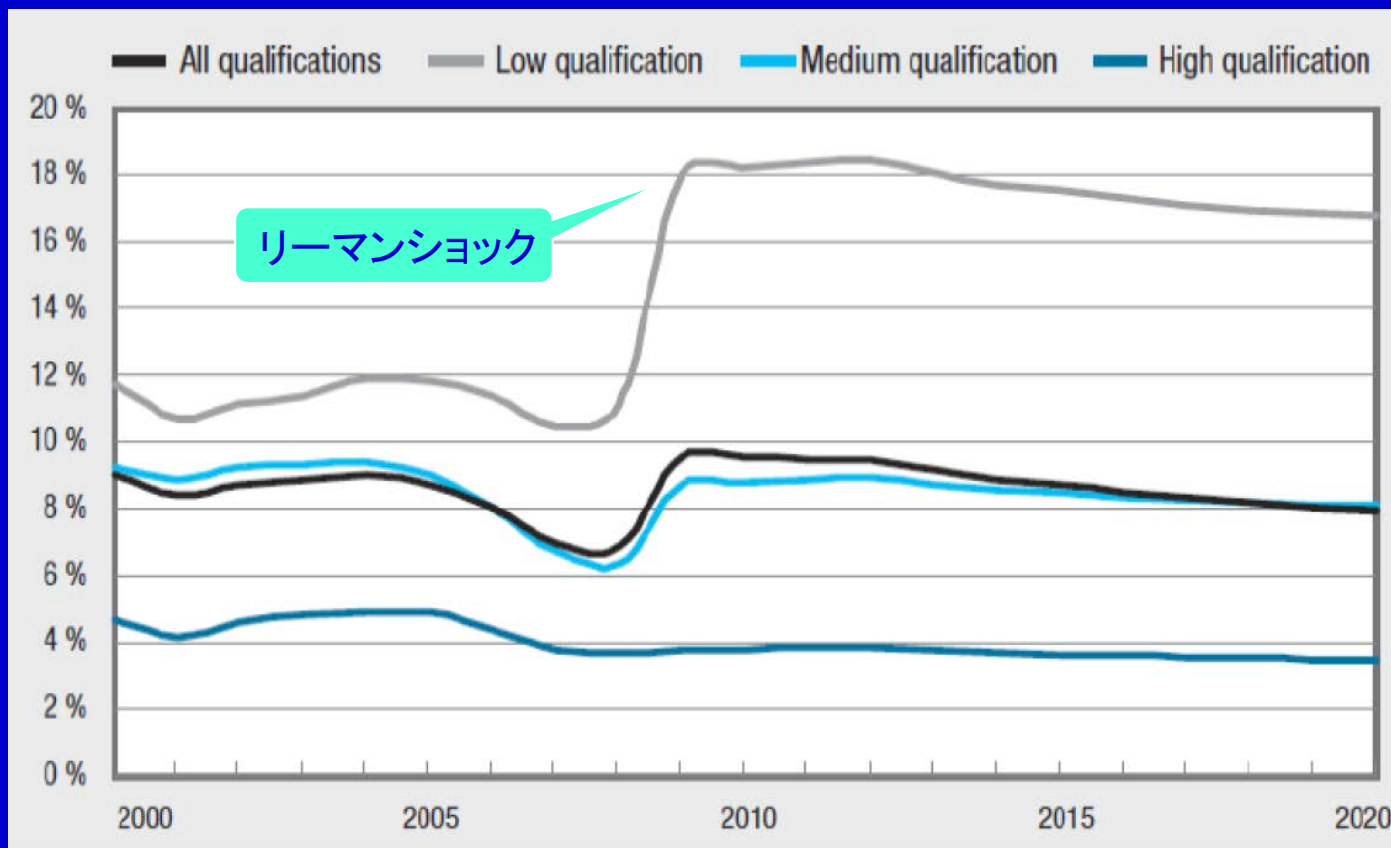
■ 個人認証

- 情報技術者は、自らの能力を客観的に証明できる
- キャリアアップやスキルアップを図るための目標が明確になる(企業は人材育成の指標として活用可)
- コミュニティを通じて、社会への貢献が可能になる

■ 企業認定

- 自社の資格制度を、グローバルに通用する資格制度に位置付けることができる
- 自社人材の能力を標準的指標で評価することができる

資格と失業率の関係 (EUの例)



高度資格保持者は景気変動に関わらず失業率が低い

Unemployment rates by qualification category, EU-27+

Source: Cedefop (2010)

CITPと他制度との関係

■ 技術士(情報工学部門)

- CITPの審査員を委嘱
- CPDプログラムの相互活用
- 技術士からCITPへのパスを検討中

■ iコンピテンシ ディクショナリ(iCD)

- CITPの審査基準にiCDを活用予定
 - CITPは資格認定のフレームワーク
- 知識・スキルの基準として、現在はITSSを採用
その時点での最適基準を採用する方針

参考資料

- 認定情報技術者制度(1)- 制度の概要 - 「情報処理」2014.8
- 認定情報技術者制度(2)- 個人認証制度の概要 - 「情報処理」2014.9
- 認定情報技術者制度(3)- 企業認定制度の概要 - 「情報処理」2014.10
- 情報処理学会、ITエンジニアの新認定制度を開始
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20140627/567344/>
- 「IT技術者を社会から尊敬される職業に」、情報処理学会が新資格制度を始めた理由
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/column/14/346926/080700030/>
- 「CITP」資格制度は、ユーザー企業がIT企業を選ぶモノサシになるか
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/column/14/493082/092400005/>
- ITエンジニアの新しい認定制度が始動、大手6社が主導するプロの免許
日経SYSTEMS 2014.5
- IT技術者を「社会から尊敬される職業に」、情報処理学会が“高度”新資格を開始
日経コンピュータ 2014.9.4

国際的に通用する高度IT技術者の育成・評価を推進する戦略とは？
—J07, JABEE, 技術士, CCSF, CITP, ISO/IEC 24773を巡って—

動き出した認定情報技術者制度

CITP

ご清聴ありがとうございました